

図書館だより 第11号

読み聞かせボランティア養成講座を終了して…



9月10日(水)に愛宕幼稚園から園児38名が図書館へやってきました。

この日は、図書館読み聞かせボランティア「よみきかせの会」から2名の方達が、職員と一緒に園児に対して絵本の読み聞かせを行いました。

「あわてんぼらいおん」を読んでもらい最初は真剣な表情で聞いていた園児たちでしたが、らいおんのあわてんぼぶりにやがて大笑いになりました。子どもたちの前ではじめて絵本を読んだボランティアの方たちも、緊張の中にも余裕のある読み聞かせぶりで、これからの第一歩を踏み出されたようです。

目次

特集1	読み聞かせボランティア講座を終了して.....	1
特集2	先進図書館見学・田原町立図書館.....	4
特集3	インターネット予約サービス開始から半年.....	5
	私のおすすめ本.....	6
	山田孝雄文庫の資料 11.....	7
	レファレンスあれこれ.....	8

図書館読み聞かせボランティア養成講座

全国的に絵本の読み聞かせに関心が多く寄せられる中、子どもと子どもの本に関心のある方を対象に図書館でボランティア養成講座を開講することになりました。読み聞かせに関する基本的な知識や技能を修得してもらい図書館でボランティアとして活動してもらうことが目的です。

5月5日号の広報で募集しましたところ、定員20名に対し105名の応募がありました。

本当に多くの方達が読み聞かせに興味を持っておられることが判り大変驚きましたが、厳正な抽選の結果今年度は前期20名、後期20名の方に受講していただくことになりました。

* * * * *

- ・ 子どもの成長と読書の関わり
- ・ 作品の読み方と選び方
- ・ 参考資料案内
- ・ 図書館利用術
- ・ 読み聞かせの実践
- ・ 子どもの読書をとりまく環境

* * * * *

上記の講座内容で図書館の職員が講師となり、6月12日に開校式を行いました。その後週1回、連続で5回の講座を受講して、図書館でボランティアとして活動していただく基礎を身につけてもらう内容になっています。

今回特に重視したのは実践編で、図書館で用意した絵本を一人一人受講者の前で読んでもらうことでした。20代から60代までの幅広い年齢層の皆さんでしたが、全員真剣に取り組んでおられたのが印象的でした。職員も5人が、それぞれの持ち味を生かした読み聞かせを交代で行いました。



「どんな本を読んだらいいの・・・？」

図書館には以前から、子どもに絵本を読んであげるのがいいと思っていてもどんな本がいいのか分からない、という質問が多く寄せられていました。このことから、講座では読み聞かせの技術を学んでもらうと同時に、実際に読み聞かせる技術や、どんな絵本が読み聞かせに向くのかそうでないかということを感じてもらいたいと思いました。



講座最終日の閉校式には終了証を20人全員に渡すことができました。その後、修了者から今後も定期的に勉強会を継続してやっていきたいとの声があがり、毎月2回図書館に集まることになりました。

図書館読み聞かせボランティアグループ「よみきかせの会」と名称を決め、第1木曜日と第3水曜日の午前中を勉強会としています。各自おすすめの絵本やテーマを決めて選んだ絵本を読んだ後、お互いに感想を言い合ったり、記録を採って今後生かす工夫もしています。



最近は、勉強した成果を生かすためにも、子どもたちの前で実際に読み聞かせをしてもらっています。最初は緊張しておられた皆さんも、子どもたちの確かな反応に支えられ、自信もついてきたようです。

今後、図書館で行っているおはなし会や、幼稚園や学校から集団で来館してきた時の読み聞かせ会、学校訪問等様々なところで経験を積ん

で、活動の輪を広げていってもらいたいと思っています。

(児童奉仕係長 黒田)

< 富山市立図書館 秋の行事のお知らせ >

第17回「ことば」フォーラム
方言の科学 ことばのくにざかい 富山

日程：平成15年11月3日(月・祝)

時間：午後2時～午後4時30分

会場：富山国際会議場(城址公園向かい)

定員：300名

無料で入場できます。

参加希望の方は事前申し込みをしてください。

問合せ先：富山市立図書館

第17回ことばフォーラム係

TEL (076)432-7272

山田孝雄文庫資料展示

山田孝雄と方言

日程：平成15年10月9日(木)

～12月3日(水)

雑誌と図書のリサイクル広場

日程：平成15年11月23日(日・祝)

時間：午前10時～午後3時

会場：富山市立図書館 3階会議室

内容：図書館で保存期間を過ぎた雑誌のバックナンバーや、除籍して不要となった本(文芸書や実用書)のリサイクルを行います。

とやま市民交流館サービスコーナー

CIC3階に12月1日(月)オープン!

開館時間：午前10時～午後9時

休館日：CIC休業日(第3火曜日)・年末年始

- ・ビジネス支援サービス
- ・児童サービス
- ・インターネット予約の受け取り などのサービスを展開します。

特集2 先進図書館見学・愛知県田原町立図書館

1. 田原町と図書館の概要

人口約3万7000人の愛知県田原町は渥美半島の付根に位置し、メロンや菊の栽培などの農業と、自動車産業を中心とした工業からなる町です。この町に平成14年(2002年)8月2日に、新しい図書館が開館しました。

地上3階建て、延床面積約4000㎡。35万冊の蔵書能力を有し、1階だけでも13万冊を開架するという町の人口からみて全国屈指の図書館規模を有し、100年後も親しまれる図書館を目指しています。この図書館の先進事例のあらましを報告します。

2. 図書館の特徴

3000㎡(東西12.5m・南北3.3m)を有する1階開架室には、開放的な空間に配慮した低書架、6箇所の中庭、NDC別・主題別を併用した図書資料の配列など様々な心配りがされています。

(1)豊富な閲覧席 独立した閲覧席は設けず、資料に近接した位置に適宜5席、10席などの座席が配置してあり、開架室全体では机のある座席とソファ等で350席を設けています。

(2)低く設計された書架 書架をはじめ各種の家具は、質の良い木製を採用しており木製の床との調和を生み出しています。また一般開架室の書架は5段が中心で、高いものでも150cmです。低く抑えた書架群が開架室の見通しの良さを助け、開放感を生み出す要因にもなっています。

(3)開架書庫 動きの少なくなった図書や新聞等を置いて、開架室と閉架書庫をつなぐ開架書庫を2階に設けています。調査研究の利用者用に座席も設けられており、真上の3階には、将来13万冊収蔵可能な閉架書庫が設置されています。

(4)将来に備える2階回廊 2階の吹抜け部分の南側に、1階の開架スペースを見下ろすことのできる回廊を巡らしています。回廊に沿う壁面は現在ミニギャラリーとして使用していますが、将来は開架書庫の延長として壁付書架を設けられるように支柱が埋め込まれています。

(5)利用者端末とインターネット端末 開架室の中央、レファレンスデスクの隣に6台の利用者用検索端末を配置。また検索コーナーにはインターネット端末3台(利用時間30分)、CD-ROM・DVD-ROM端末、マイクロリーダなども配置し、様々な情報検索の環境を整備しています。

3. 図書館建設までのあゆみ

今回紹介した田原町の図書館建設では、関係者が平成12年(2000年)9月の「図書館実施計画」終了までに延べ100回以上の勉強会や各種団体・機関などへのヒアリング調査を重ねています。図書館利用者、図書館職員、行政関係者が一体となり知恵を出し合った図書館建設のすぐれた事例といえます。(中央館 小川)



特集3 インターネット予約サービス開始から半年・・・

本年度の4月1日からインターネット予約のサービスを開始して半年。当初の申込者数はおよそ300人でしたが、10月1日現在

では登録者数は3倍の900名にまで増加し、利用冊数も1ヶ月あたり1000冊をはるかに越える盛況ぶりを示しています。

予約冊数の推移

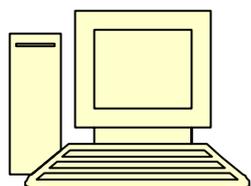
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平成12年度	5473件	5828件	6286件	6054件	6511件	5223件
平成13年度	6571件	7311件	8196件	7911件	7666件	5982件
平成14年度	7849件	8405件	8372件	9201件	8634件	8283件
平成15年度	9139件	10443件	10283件	12361件	10722件	9096件
(うちインターネット予約)	*	1026件	1127件	1483件	1343件	1650件
インターネット予約の割合	-	9.8%	10.9%	11.9%	12.5%	18.1%

* 4月分のインターネット予約の統計は不明です。

前年度までと比べての明らかな予約冊数の増加は、その多くがやはりインターネット予約の利用によるものと考えられます。全リクエスト件数のうちのインターネット予約の割合は、現在およそ10%強ですが、月毎にその割合を増していっています。

インターネット予約の利点は、図書館にわざわざ足を運ばなくても、家にいながらにして必要な資料が確保できることです。自分で本を検索してどんどん予約される方、ご家族全員で予約し何十冊も借りていかれる方、分館に本を取り寄せて借りられる方など、インターネット予約のサービスはいろいろな方法で活用されています。

インターネット予約の連絡のメールは毎日発信しておりますので、なるべくこまめに確認していただきますようお願いします。



インターネット予約に関するQ & A

Q. インターネット予約を利用するには?

A. 図書館の利用カードと、パスワードの登録が必要です。中央館・分館の各窓口においてある申込用紙に必要な事項をご記入の上、お申し込みください。

Q. 携帯電話のメールでも大丈夫?

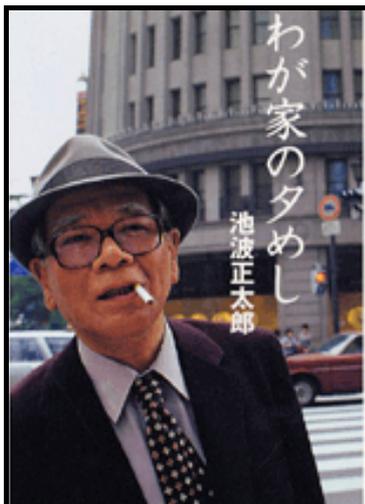
A. はい、大丈夫です。ただし、広告メール受信拒否の設定をしておられる方は、図書館からのメールが届くよう設定しておいてください。

Q. パスワード・Eメールアドレスの変更について。

A. パスワードはホームページの「パスワード変更」の画面から変更できます。メールアドレスは窓口で再度お申し込みいただくか、メールで氏名と利用者コード、新しいメールアドレスを書いてご連絡ください。

(館内奉仕係 宮本)

私のおすすめ本 *****



『わが家の夕めし』
池波正太郎著
講談社

池波正太郎にとって昭和45年から昭和47年は『剣客商売』『仕掛け人・藤枝梅安』を相次いで発表し、先行した『鬼平犯科帳』と3シリーズが出揃った時期である。

エッセイを書くゆとり、楽しみでエッセイを書く余裕を作者が見出せなかった時期でもある。その当時の本になったことのない51編がこの本にまとめられている。

なかでも、「梅雨の北陸路」「北陸から飛騨へ」と題した2編は当時の北陸あるいは富山の様子が生き生きと描写されていて年配の方々にとって懐かしい思いで読むことができるのではないだろうか……

『梅雨の北陸路』（スクラップブック昭和45年）

「まず、丸岡へ向かう。はじめて丸岡城を見る。よい城なり。戦国中期の城そのものをまざまざと見るおもいがする。町も落ちついていてよい。永平寺へまわり、さらに武生の町へ入る。この町もはじめてなり。北陸へは数えきれぬほど来ているが、今日は、はじめて見るところが多い。梅雨で予定が狂ったおかげである。武生で、と

いうよりは、北陸に聞こえた蕎麦屋（うるしや）へ行き、そばを食べる。さすがに逸品。期待を裏切らぬ。秋から冬にかけて来たら、もっとおいしいにちがいない」

池波さんが、「戦国中期の城そのもの」と言い切り、「期待を裏切らぬ」と断言されると丸岡城へも、武生へも訪れてみたくなる。季節も秋から冬がいいのかと、妙に納得してしまうのである。

『北陸から飛騨へ』（スクラップブック昭和47年）

「快晴。富山から氷見市へと向う。日本海の潮の香と、澄み切った初夏の大気のおいにさそわれ、夕方まで、氷見の町を歩く。途中、散髪をする。ていねいである」

氷見の町並みをぶらぶら歩きながら、ふと目に止まった床屋で、寄り道をしたのであろうか……池波さん描くところの鬼平の一場面を髷ぼうとさせる。「ていねいである」のひとつでその床屋の主人の人柄まで想像させるではないか。

「今日も晴れている。富山市へ出て、電気ビル地下のレストランで、カレーライスを食べる。むかしのままにここのカレーはうまい。私の好きなカレーだ。一同、朝飯を食べたばかりなのに、一皿ぺろりと食べてしまう」

何年ごろまで、電気ビルの地下にレストランがあったのであろうか……池波さんが朝飯を食べたばかりでもぺろりと平らげたというカレーを食べてみたかった。馴染みの地名がでてくだけで本の内容がより身近に感じられるものである。池波さんはこのあと、山代へまわり、富山に戻り、また同じカレー・ライスを食べ、高山へ向かっている。

（藤川 寿子）

執筆者紹介 昭和23年生。昭和46年、声のライブラリー友の会発足時から活動を続け、平成元年からは友の会第3代代表をつとめる。平成14年度に、富山市の表彰を受賞。



曾我物語は、南北朝時代の初めころにはすでに成立していたと見られる軍記物語。曾我兄弟の成立から復讐に至る次第を叙述したものである。伊豆国所領をめぐる工藤祐経と伊東祐親の争いから、祐親の子河津三郎祐重が工藤祐経の企みにより暗殺される。この河津三郎祐重の子一万と箱王（これが後曾我十郎と五郎になる）が元服し、源頼朝が富士の裾野で巻狩りを催したとき、頼朝の寵臣として権勢に奢る工藤祐経を首尾よく打ち取り、討死するというあらすじである。

古活字本というのは、近世後期の「近世木活字」と区別して近世初期の活字印刷による本をいう。日本の印刷は、この古活字本の時代が50年ほどで終り、読者層の拡大に伴い出版業が成立すると、文面を版木に彫り印刷する整版印刷の時代になる。

山田孝雄蔵本（現山田孝雄文庫所蔵本）の類型については、書誌学の権威川瀬一馬博士が、その著『古活字版の研究』の中で、次のように述べている。

古活字本。寛永年間（1624～1644年）刊。
12巻12冊。たて28cm×よこ21.2cm。毎半葉12行 毎行26字～28字。濃茶色表紙。題簽剥落。墨書による「曾我物かたり」の外題あり。無刊記。

「〔曾我物語の古活字本の類型の5番目は〕寛永中の印行と認む可き小型の活字を以て摺刷を行つた一本で（毎半葉十二行、毎行約二十七・八字。字画の高さ約七寸九分。同種活字印本、寛永十七年刊左大將六百番歌合の他頗る多し。）之には異植字版も存し、（イ）神宮文庫蔵本（村井敬義納本、栗皮色原表紙を存し、巻四・七・九の三冊、原題簽あり。）・正宗敦夫氏蔵本（巻一・六・十一缺）の類と、（ロ）安田文庫蔵本・京都帝國大學蔵本（巻四・十一、缺十冊）・山田孝雄博士蔵本の類とがある。」

ちなみに、この山田孝雄文庫所蔵本の字様は、新潮社版『日本文學大辭典』の曾我物語の項に掲載されている別刷写真の「木活字本曾我物語」と同じ字様である。

（中央館 龜澤）

レファレンスあれこれ

Q. 沖縄の海岸部に自生して開花する植物、‘ゆうな’の外観と特性などを知りたい。別名をオオハンゴンソウ(?)とか聞いた記憶がある。

A. 『原色牧野植物大図鑑 離弁花 単子葉植物編』(1997年 北隆館)、『原色日本植物図鑑 草木編』(1969年 保育社)、これらは、古典的とも言える植物の図鑑だが、索引を引いても‘ゆうな’を見つけることができなかった。

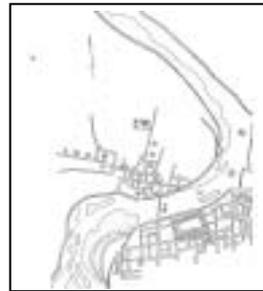
『朝日百科 世界の植物』(1978年 朝日新聞社)、『原色季節の花大事典』(1975年 毎日新聞社)などの、生態や応用に詳しい図鑑類でも見つけることができない。

そこで、視点を変えて『日本方言大辞典』(1989年 小学館)を引くと別名がオオハマハマボウであることがわかった。あおい科の小高木で6月から8月に枝先の葉腋に大きな花を付けるが、午前中は黄色く、午後からは赤く変わり落ちてしまう一日花だということである。また、防風林や防潮林、街路樹にも利用されているらしい。

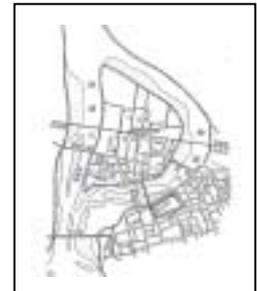


(絵：ゆうなの花)

Q. 近代以前の神通川は富山城の北側を流れていたというが、古来の河道だったのか、人為的に変えられたものだったのか、後者なら、その理由を知りたい。



(明治初年ごろ)



(大正初年ごろ)

A. 『富山大百科事典』(1994年 北日本新聞社)を見ると、神通川の河道の変遷が相当詳しく書かれている。

さらに詳しく知りたい場合は、神通川に関する当館の基本的な蔵書として『神通川誌』(1955年 重杉俊雄著)、『神通川とその流域史』(1981年 高瀬信隆著)、『神通川 河川の歴史読本』(2001年 国土交通省北陸地方整備局編)をおすすめしたい。

近代以前の河川は、たびたび大規模な氾濫によって河道を変え、また築城に伴い外濠として使われることがあった。

富山城の場合も、洪水で流れが変わった神通川を佐々成政が利用して、城の守りを固めようとしたもので、城の近くに移動してきた川をさらに人工的に曲げ富山城の北側へ水を流した、と上記の文献には記されている。

(中央館 柴田)

平成15年10月15日 富山市立図書館 編集・発行
富山市丸の内1丁目4-50 TEL 076-432-7272
HPアドレス <http://www.library.toyama.toyama.jp>
E-mail lib-02@library.toyama.toyama.jp